

住民の意見を聴く会（2004.12.5開催）結果報告		2005.1.5 庶務発信
開催日時：	2004年12月5日（日）13：30～17：40	
場 所：	カラスマプラザ 21 8階大・中ホール	
参加者数：	委員 25 名、発言者 10 名、一般傍聴者（マスコミ含む）154 名	
<p>「住民の意見を聴く会」の概要</p> <p>三田村委員より本日の会の趣旨および進行について説明がなされた後、公募によって選出された発言者 10 名から資料 2「発言者から提供いただいた資料」をもとに各 10 分ずつご発言頂いた後、委員との意見交換が行われた。</p> <p>ダム全般に関する発表と意見交換</p> <p>近藤ゆり子氏「ダムは要らない - 特に水資源機構ダムに関しての意見 -」、金屋敷忠儀氏「ダム無用論を憂う」、大賀須賀子氏「ダムに頼らず、どうすれば自然の恵みを効率よく利用できるのか、山と川と向き合って考えよう」の発言が行われた後、委員との意見交換が行われた。主な内容は以下の通り（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの河川整備によって河川が良くなったと思われるか。治水や利水が向上したのは確かだが、河川環境は確実に悪くなった（ダムWGリーダー）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、河川の水質は河川管理者にはどうすることもできない。人間の生活が変化したことが主な原因ではないか（発言者）。</li> </ul> </li> <li>・資料 2 には「ダム築造を起爆剤として地域振興に役立っている例は多数あります」とあるが、具体的な事例を教えて欲しい（委員）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ダムによって周辺地域が鳥獣保護区となり水鳥が増えた例が、伊豆の伊東市の伊東大川のダムをはじめ、いくつもある（発言者）。</li> </ul> </li> <li>・流域委員会では、ダム全般を不要としているわけではなく、個々のダムについて検討している。ダムはあくまでも選択肢の 1 つだと考え、検討を進めている（委員）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>早い段階から「ダムは原則として建設しない」としたのは問題だと考えている（発言者）。</li> </ul> </li> <li>・現場で徳山ダム建設中止運動をしてこられたとのことだが、ダムの現場では何と何が対立して問題となっているのか、お聞かせいただきたい（ダムWGリーダー）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>河川管理者自身も徳山ダムが無用だということは知っていると思うが、それでも建設が止まらない。長年に渡る計画を軌道修正するのは難しいが、少なくとも白紙に戻すべき（発言者）。</li> </ul> </li> <li>・ダムを考える際に、何に重点を置いて考えるべきか、ご意見を頂きたい（ダムWGリーダー）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>利水については「不要」という結論が出ているだろう。治水については、100 年単位で考えるべきことであり、予算をどのように使うかという点が重要だ。現在も堤防から漏水している箇所があり、そういった箇所に予算を追加投資していくべき（発言者）。</li> </ul> </li> </ul> <p>丹生ダム、琵琶湖に関する発表と意見交換</p> <p>酒井研一氏「丹生ダム本体工事の早期着工・早期完成を」、井上哲也氏「『琵琶ダム』の水位操作を改めて『琵琶湖』に戻し、適正に管理を」の発言が行われた後、委員との意見交換が行われた。主な内容は以下の通り（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防強化について、どのようにお考えなのか、お聴かせ頂きたい（委員）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>高時川、姉川には堤外民地があり、これが河道整備を遅らせてきた原因でもある。また、河道内樹木や桑園等もあるので、これらが護岸整備の支障になってきたとも聞いている（発言者）。</li> </ul> </li> </ul>		

・琵琶湖総合開発で丹生ダムを建設することに決まり、丹生ダムを前提として、平成6年のような渇水で琵琶湖水位が - 150cm 以下になるにもかかわらず、下流に 40m<sup>3</sup>/s の水利権をあげた。下流の利水者がこの水利権を滋賀県に返還しないで、丹生ダムから手を引くというのは馬鹿げた話だ。淀川下流域の利水のためにも、滋賀県の利水のためにも、丹生ダムは必要だ（発言者）。

・具体的にどのように琵琶湖の水位操作を改めていけばよいとお考えか（委員）

少なくとも、現在の水位操作は正しいとは思えないので、とりあえず以前の操作規則に戻し、その上で検討すべきだろう。自然のリズムに戻すことが大切だが、その結果として治水リスクは高まる。しかし、琵琶湖の水位上昇によって死者は出ない（発言者）。

#### 大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発に関する発表と意見交換

西村雅雄氏「大戸川ダム建設の必要性に関する意見」、藪田秀雄氏「環境と景観を取りもどし、子どもたちが遊べる宇治川を」の発言が行われた後、委員との意見交換が行われた。主な内容は以下の通り（例示）。

・宇治川が危険な状態にあるというのは同感だ。宇治川が危険であるにもかかわらず、1500m<sup>3</sup>/s を流そうとしているのだから、相当の河道整備が必要ではないかと思っている（委員長）。

確かに天ヶ瀬ダムを再開発し、塔の島地区の河道掘削を行えば、1500m<sup>3</sup>/s 流すことはできる。

大戸川ダムがなければ、1500m<sup>3</sup>/s の放流は当然必要だ（発言者）。

・各ダムの比流量が比較されているが、洗堰も同列で比較されている。確かに洗堰の危険性は理解できるが、洗堰を他のダムと同列で比較するのは適切とは言えないのではないか（ダムWGリーダー）。

・宇治川の景観が悪くなったというご指摘は確かに分かるが、今後の宇治川の景観をどのようにしていきたいと思っているのか、全体像を教えて欲しい（委員）。

河道掘削を前提とした5つの工事によって宇治川の景観が破壊された。修復は宇治川本川を掘削すれば元へ戻せない。掘削しなければ元へ戻せる。掘削しない方法はないか、治水と景観を同時にクリアできる方法が求められている。まず、これ以上景観を破壊しないことが大切。修復について地元住民の意見を聴いて慎重に進めて欲しい。完全に元に戻すのは難しいかもしれないが、昭和30年頃の宇治川の写真を資料2に掲載しているので参考にして欲しい（発言者）。

・確かに塔の島地区の景観は悪くなってしまった。ただ、現状においても、河道断面をなだらかにすることで良い方向へ変わっていく可能性はあると思う（委員長）。

護岸をなだらかにすることで水に親しむことはできる。まず治水を考えてから、環境や景観を手直しするというやり方では駄目だ。河川法は治水、環境を同時にクリアすることを求めている。景観や自然環境を踏まえた判断がいる。塔の島周辺は世界遺産と一体となった価値がある。1500m<sup>3</sup>/s 流すのであれば、景観保全のための鹿跳溪谷バイパストンネル同様に、塔の島地区でもバイパストンネルが検討できないのか。委員会の知恵をいただきたい。（発言者）。

・天ヶ瀬ダムができてから、塔の島地区の河床低下はかなり進んでしまった。かつての宇治川には戻らない。現在の状況からどのようにしていくかを考えざるを得ないと思っている（ダムWGリーダー）。

#### 川上ダム、余野川ダムに関する発表と意見交換

猪上泰氏「川上ダムに関する発言 - 川上ダムの早期完成が不可欠 - 」、森本博氏「ダムの自然に対する負の効果」、増田京子氏「そもそも余野川ダムは本当に必要だったのだろうか」の発言が行わ

れた後、委員との意見交換が行われた。主な内容は以下の通り（例示）。

- ・川上ダム計画がこれほどまでに時間がかかっているのは、どこに問題があったと考えるか（委員）。水没地の方々の同意を得るのに時間がかかったことも原因の1つだろう。また、県や国にとっては一般事業の1つだが、町にとっては100年に一度の大事業だ。国と町の考え方の差もダム計画が長期にわたっている原因の1つではないか。しかし、国がやると決めた限りは、やって欲しい。1日も早い結論をお願いしたい（発言者）。
- ・上野遊水地の整備も進んでおり、私たちが再計算した岩倉峡の疎通能力と合わせれば、川上ダムなしでも大丈夫という結果が出た。河川管理者は水没者や地権者にお詫びをして、きちんとした説明をしていくべきだ（発言者）。
- ・一般傍聴者が主張している現在の岩倉峡の疎通能力に関しては、私も精査してみたが、主張されている通りの疎通能力にはならないだろう。確定した数値ではないという受け取り方をして頂きたい（ダムWGリーダー）。
- ・余野川ダムの存在意義は、これまでに治水・利水ともに二転三転しており、すでにダム計画の存在意義は失われてしまっている。最初の目的から二転三転したのは、ダム建設の理由を後付けしようとしたからだと考えているが、すでにダム計画は破綻してしまっている（委員）。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者5名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・運用中のダムやダム撤去の費用について精査が必要だ。また、住民の意見というのはよくわからない。住民はまだまだ本音を出していない。委員会は住民の意見をもっと引き出さないといけない。
- ・天井川の近くで暮らす恐ろしさはわかるが、利水に関してはダムの必要性が失われつつある。それでもダムが必要だとお考えなのか。

利水に関しては、これまでの計画どおりでお願いしたいと思っている。丹生ダムがなければ、異常湧水時に琵琶湖の水位低下を抑制できない（発言者）。

- ・委員から「川上ダム計画に長い時間がかかっているのはなぜか」という質問があったが、それは下流の犠牲になるような治水計画に地元が協力できなかったからだ。岩倉峡の開削はできないから、川上ダムと遊水地で対応するというのが国土交通省の説明だ。ダム建設方針を早く示して欲しい。
- ・宇治川の治水にとって、大戸川ダムも丹生ダムも必要だ。ダムはできるだけない方がよいが、必要な場所では必要だ。また、現在の宇治川は放水路のようになってしまっており、子どもたちが近づけないような川になっている。これも考慮した検討が必要だ。

最後に（ダムWGリーダー 今本委員）

会の冒頭に「今さらなぜこのような会を開くのか」という質問があったが、ダム検討をより慎重に進めたいから、住民の皆さまからご意見をお聴きする会を開催した。ダムWGはこれから報告のとりまとめ作業に取りかかる。水没者やダムの地元住民の皆さまに比べれば、流域委員会の苦勞など些細だが、真剣に取り組んでいきたいと思っている。第36回委員会（12/20）にダムWG報告（案）を提出する予定なので、皆さまからご意見やご批判を頂きたいと思っている。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。